



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫

◎石叫■

「天国での癒し」

黙示録二二章2節に、不思議なみ言葉がある。「御使いはまた、水晶のように輝いているいのちの水の川をわたしに見せてくれた。この川は神と子羊の御座から出て、都の大通りの中央を流れており。川の両側にはいのちの木があつて、十二種の実を結び、その実は毎月みり、その木の葉は諸国民をいやす」とある。この最後の「いやす」という言葉が不思議なのである。というのも、この前章において、「人の目から涙を全くぬぐい、とって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない」(4)とあるように、少なくとも天国では病気がないと思われる。そうならば、どうしてこの「いやし」という言葉がでてくるのであろう。これは長い間の私の疑問であつた。この度『クォーターリー・アゴラ』の7月号に東京基督教大学教授の櫻井園郎先生が、これに言及している。

「いやし」というと、必ずしも病気とは限りませんが、「薬」というと、本格的な病気が連想されます。もちろん、前者も医学的には病気であり、後者の「薬」も治療以外に用いるものもあります。前者であれば、地上の生活の癒しとか、軽い肉体的・精神的な疲れの癒しという可能性もありますが、ハーブの一緒として、香り・味付けなどで、生活の潤い、食生活の深みをもたらすということかも知れません。なにしろ、「薬」には煙草や麻薬となる効能もありますから。後者であれば、病気の治療目的ということが濃厚です。で、その場合の病気ですが、筆者は「食べ過ぎ」のようなものではないかと考えています。「薬」と言っても、「消化剤」のようなものかも知れません。そうだとすれば、これも、神の深い哀れみです。天の御国で神に仕える者となつたとはいえ、人間はロボットになつたわけではありません。たとえ天国であつたとしても、単なる秩序だけで生きているものではないと思うのです。もちろん神への奉仕は喜びであり、神の栄光の下での生活には不満があるはずがありませんが、食べるにしても、機械的に、計算通りに必要な時に必要な限度で食べるというのではなく、多少はめを外す、美味しい物だという手が伸びてしまうというのが人間でしょう。天国においても、人間として生きる以上、食べ過ぎ対処法は嬉しい配慮です。

櫻井先生のコメントは実に具体的でうがった見方である。これまでこの「癒し」について何人かの聖書学者に尋ねてみたことはあつたが、どれも当を得ないものであつた。それだけに、今回の先生の「食べ過ぎ」のコメントには、これまで消化不良が、スッキリ直つたようで、文字通り「癒」されたのだつた。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

